わが街わが故郷

株式会社ナチ東北精工
～ 山形を行く ～

株式会社ナチ東北精工

本社、第一・第二工場

山形県山形市立谷川3－1174－3

谷地工場

山形県西村山郡河北町谷地字真木130－1

ナチ東北精工は、1950(昭和25)年に自動車部品の製造会社として設立し、1955年から油圧バルブを本格的に生産し始めました。1967年には不二越と業務提携を結び、ナチの油圧機器を中心に生産から出荷までを一貫して担っています。現在は、不二越のグループ生産会社として、本社がある山形市内の第一・第二工場では油圧機器や印刷用各種装置を、昨年10月に生産強化を図って増築した河北町の谷地工場では、建設機械に使われるロータリーセンタージョイントを生産しています。

山形の歴史

南北朝時代、奥州探題(おうしゅうたんだい)の一人 斯波家兼(しばいえかね)の次男兼頼(かねより)が羽州探題(うしゅうたんだい)として山形へ入部した後、兼頼を祖とする最上氏の勢力が出羽一円に拡大しました。最上義光(よしあき)の時代には、山形城を大城郭に改築して城下町を建設し、寺院を一か所に集めて寺町を形づくるなど、現在の礎を築きあげました。山形新幹線が開業し、東京からは2時間半とぐんと近くなっています。

山形の建築物

山形には、歴史を色濃く残した建物がたくさん残っています。大正初期のレンガ造りが印象的でかつて県庁と議事堂として使用された文翔館、明治初期における木造下見板張りの最高作とうたわれ、当時の佇まいを残す元市立病院済生館本館は、現在山形市郷土館として医療・郷土関係の資料を展示しています。そのほかにも、国の重要文化財に指定されている建物がたくさんあります。

文翔館の時計台は、分銅をつかって歯車を動かし、時を刻む。7メートルのワイヤーロープでつるした分銅は、5日ごとに巻き上げられる。

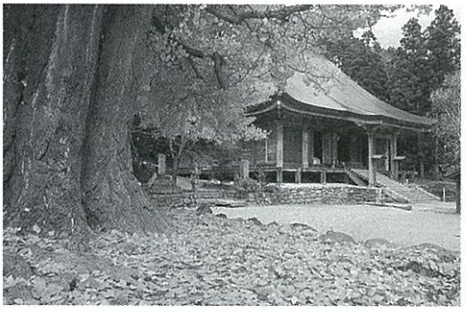
山形のみどころ・季節の味

季節ごとにさまざまなイベントが目白押しで、4月には霞城公園を囲む1,500本もの桜がライトアップされ、圧巻です。5月には、全国三大植木市に数えられる薬師まつり植木市や、雨が一粒でも御輿(みこし)に当たれば豊作と言われる山寺日

日枝神社

枝神社山王祭が行われます。

山王祭が行われる日枝神社は、松尾芭蕉の句「閑けさや岩にしみ入る蝉の声」で有名な山寺立石寺にあります。860年、清和天皇の勅願によって慈覚大師がひらいた天台宗の山で、切りだった岩山には数々の御堂が残っています。ブナ材建築物として日本最古といわれる国指定重要文化財の根本中堂には、不滅の法火*を拝することができ、慈覚大師作と伝わる木造薬師如来像が安置されています。日枝神社の右側後方には、慈覚大師が植えたと伝えられる山形一太い天然記念物の大イチョウがあり、樹齢千年を超えます。



手前が大イチョウ、奥が根本中堂

＊伝教大師が中国の天台山から比叡山に移した火を立石寺に分け、逆に、織田信長の焼打で延暦寺を再建した際には立石寺から分けた。

鎌倉時代に建立された山門は、開山堂などへの登山口であり、大仏殿のある奥の院まで石段は800を超えます。途中には、芭蕉の句の短冊を地に埋めて石塚を建てたせみ塚、長い歳月の風雨が直立した岩をけずって弥陀如来像をつくりだした弥陀堂があります。岩が仏の姿に見える人には幸福が訪れると言われています。

奥の五大堂は、山寺唯一の舞台式御堂。慈覚大師が五大尊を安置し、仏法の隆盛を祈った。手前の小さな小屋が納経堂で、真ん中が開山堂。

奥の院とも言われる如法堂では、千年以上使ってもすり減らない硬い石墨と草でつくった筆(石墨草筆)を使って、毎日7行半ずつ経文を書写します。

毎年8月6日の夜から7日の朝にかけて、夜通し念仏を唱えながら根本中堂から奥の院をめざす夜業念仏は、300年の歴史を持ち、無形民俗文化財に指定されています。実際にこの山を登ってみれば、修行僧や松尾芭蕉の気持ちを垣間見ることができるかもしれません。

谷地工場がある河北町は別名「べにばなの里」とも呼ばれ、黄色の紅花が開き始めた7月の初めから、べに花まつりが始まります。日を追って赤くなったころ花摘みが行われ、摘んだ花弁

紅花

を洗い寝かせて花餅をつくります。室町時代から船を使って最上川から日本海を通って京都・大阪へと送られた花餅は、純金と同じくらい貴重なものでした。神秘的とも思える美しさは、いつの時代も女性の憧れの的です。

紅花の返り荷として、山形へは上方文化が伝わってきました。500年前から伝わる谷地ひなまつりも上方文化の影響がつよく残る行事の一つです。旧家で大切に保管されてきた享保雛や古今雛などは一般へ公開され、訪れた子供にはひなあられや甘酒が振る舞われます。

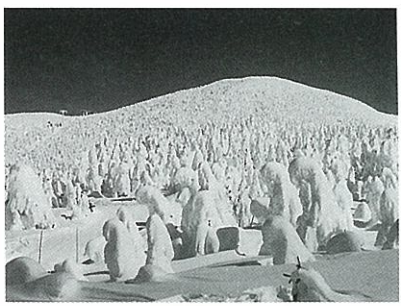
紅花で染めた着物を着たお雛様。お人形は現在のものより大きめで、お膳には、本物の料理が小さく飾られる。

8月、大権現遷座祭(だいごんげんせんざさい)を皮切りに3日間山形市内は祭り一色に染まります。花笠音頭の花笠は紅花をイメージし、1万人の踊り子が「ヤッショ、マカショ」のかけ声とともに見せる華麗な踊りは、五穀豊穣を願う田植え踊りが発祥。

紅花と並んで山形の初夏の風物詩として有名なサクランボは、日本一の生産量を誇ります。ルビーのように赤く鮮やかに染まった実が木々にびっしりとなりはじめると、辺り一面甘酸っぱい香りにつつまれます。ブドウの産地としても有名で、最近は、まろやかな風味と芳しい香りでフルーツの王様とも言われるラ・フランス／洋梨への注目が高くなっています。

9月には収穫を感謝し、隣近所の結束を固めることから始まった“いも煮会”が行われます。馬見ヶ崎河畔ではシーズンはじめ、直径6メートルの大鍋に3万食分の里芋、牛肉、こんにゃく、長ネギを入れ、醤油と砂糖、酒で味付けし、ショベルカーでかき混ぜます。素朴でシンプルな味付け、自然の恵みをたっぷり味わえるごちそうです。

藍空に広がる大自然蔵王は、東北最大級のスキーリゾート。世界的に知られる自然の芸術品樹氷／スノーモンスターは、常緑針葉樹アオモリトマツが雪と氷に覆われてできます。樹氷は、雪雲の中の過冷却水滴が枝や葉にぶつかって凍りつく着氷、着雪、雪が互いにくっつき固まる焼結をくり返して大きくなります。こうしてつくられた樹氷の表面は、その形状からエビのしっぽと呼ばれています。



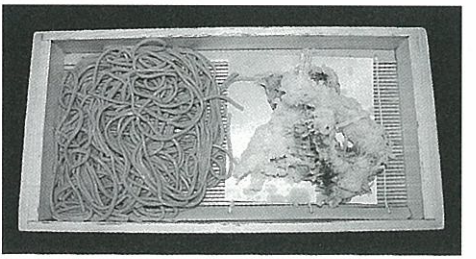
樹氷

花笠音頭の「めでためでたの若松さま」でなじみ深く、別名縁結びの寺として広く知られる若松寺(じゃくしょうじ)は、山形市の隣、天童市にあります。

若松寺

天童市は将棋駒の生産でも有名で、毎年４月に開かれる天童桜まつりでは、約２千本の桜が咲き乱れる舞鶴山を舞台に人間将棋が行われます。太閤秀吉が小姓と腰元たちを将棋の駒に見立てて将棋を楽しんだ故事にならい、冑や着物姿に身を包んだ武者や腰元たちが将棋の駒となって対局します。

別名フルーツ王国とも呼ばれる山形ですが、田舎そば、鯉のうま煮、松坂・神戸牛に匹敵するといわれる山形牛、醤油がたっぷりしみ込んであめ色がつややかな玉こんにゃくなど美味しいものがたくさんあります。春には、シャキシャキした歯ごたえのおかひじき、雪解けの深山の中から出てくるワラビ、ゼンマイなどの山菜、夏には山形発祥の冷やしラーメン、秋には菊の花をおひたしにした“もってのほか”、冬には身体の芯から暖まる納豆汁、青菜漬けなど自然の食材にあふれています。



田舎そば

ナチ東北精工は、昨年10月、谷地工場を増築し、不二越の営業拠点山形営業所を事務所内に新設し、不二越との連携を強めました。魅力的かつ成長を続ける山形、不二越にとってなくてはならない魅力的な存在にしていきます。

（株式会社ナチ東北精工　濵本
株式会社不二越　総務部広報　嘉指）